

# DEBUT 首長

長野県長野市長 加藤 久雄氏



かとう・ひさお 1942年長野県長野市生まれ。65年早稲田大学第一政治経済学部卒、67年本久入社。85年同社社長、2009年に本久ホールディングス社長に就任。07年から長野商工会議所会頭・長野県商工会議所連合会会長を務め、13年10月に長野市長選出馬。11月に就任。

## 北陸新幹線延伸や善光寺御開帳「おもてなし」機運の醸成に力

**長野市** 長野県の県庁所在地として県北部に位置し、古くから善光寺の門前町として栄えた。1998年の冬季オリンピック開催地として国際的にも知名度が高く、外国人観光客も多い。

——来年春には北陸新幹線が金沢まで延伸する。

新幹線延伸は長野にとって終着駅から通過駅になるという大きな変化をもたらす。ただ、今のままでは長野市は観光客をおもてなしできる体制が整っていない。この問題を解決できる秘策が来年4月から6年に1度開催される善光寺御開帳だ。

御開帳には700万人近くの観光客が来てもらえるが、新幹線延伸で便利になったが故に短時間滞在してすぐに移動してしまう可能性があり、地元でお金を使ってもらえない。いかに長く滞在してもらえるかが大事だ。御開帳の期間中は「毎日がお祭り」のような状態にして市民にも長野五輪の時に盛り上がったボランティア精神を取り戻し、皆で観光客を迎えようという参加意識をつくっていく。

関与してもらうことで、市民にお客様を迎えるという気持ちを持ってほしい。空き店舗で振る舞い酒などを提供し、メインストリートを歩行者天国にして踊りや歌を披露するなど、お祭りの雰囲気をも町全体で醸し出す。

——北陸や県内の自治体との連携も課題になる。

北陸新幹線沿線の自治体と切磋琢磨<sup>せつたくま</sup>して地域全体の魅力を高め、いかに北陸新幹線にお客様を持ってこれるかどうかが大切だ。「上越の日」、「金沢の日」など沿線駅の日を設け、北陸から出し物や物産の販売などで参加してもらいたい。長野にある文化・音楽団体にはボランティアとしてイベントに参加してもらい、他県の団体にも友情出演を呼びかけてもらう。

福井では善光寺講も盛んだ。これからは関西圏との接点も作れる。富山空港や小松空港などを経由した外国人観光客の誘致にも力を入れる。韓国は43%が仏教徒だ。黒部・立山地域と一緒に善光寺にも寄ってもらえる。

県内第2の都市の松本市と長

野市を合わせれば大きな経済圏が生まれる。両市の職員で誘客に関する実行委員会を設置できるよう検討している。松本空港経由で九州や札幌からの観光客も見込める。

——他にも市政に課題はありますか。

中山間地の活性化も大きな問題だ。長野市は60%以上が山林だ。農業法人を通じた企業の参入を後押しし、企業による農業経営を育成して地域の雇用も確保していく。

子ども支援部を立ち上げ、ワンストップで子育て支援ができるようにし、安心して幼児から高校まで子育てができるように教育レベルを上げていきたい。

新年度早々に市で就職サイトを設置し、市内に多い中小企業と学生のマッチングを支援する。学生の父母向けに就活セミナーを開くなど、商工会議所と連携して支援していきたい。

(聞き手は

長野支局 逸見 純也)